

第2回豊川市文化財保存活用地域計画協議会 会議録

1 開催日時

令和5年3月29日（水） 午前10時00分から午前11時25分まで

2 開催場所

音羽文化ホール3階大会議室

3 出席者

豊川市文化財保護審議会会長..... 片山 洋
愛知大学文学部教授..... 山田 邦明
豊橋技術科学大学教授..... 浅野 純一郎
八幡町内会長（国分寺跡・国分尼寺跡公園管理支援団体）..... 五味 靖仁
財賀寺住職（国県指定・国登録文化財所有者）..... 西本 全秀
豊川市観光協会専務理事兼事務局長..... （平賀代理 秋山）
豊川商工会議所事務局次長..... 佐原 圭子
愛知県県民文化局文化部文化芸術科文化財室主査..... 浅岡 宏司
豊川市市民部長..... 須川 勝以
豊川市産業環境部長..... （森下代理 柴田）
豊川市都市整備部長..... 増田 孝道
豊川市教育部長..... 前田 清彦

欠席者

御油松並木愛護会会長（御油松並木保存愛護団体）..... 天野 保幸

4 議題

- (1) 豊川市の文化財や歴史的な資産に関するアンケート結果について
- (2) 文化財保存活用地域計画策定案について
- (3) その他

5 議題および議事の要旨

- 事務局 ・文化財の保護審議会は3月8日、庁内部会を3月23日に行った。
資料についての説明
- 会長 議題1「豊川市の文化財保存活用のためのアンケート結果」について
- 事務局 豊川市の文化財保存活用のためのアンケート結果について説明
・アンケート名は「豊川市の文化財保存活用のためのアンケート」と改めた。
・関心があるかないかの項目については「どちらともいえない」の選択肢を加えた。
・中学生は市内全中学校3年生とした。
・一般市民・中学生はウェブで回答できるようにした。
・一般市民2,000人の対象者に配布し、回収数は698件、34.9%の回収率だった。うち、ネットでの回答は137件だった。
・中学3年生1,792人に対して回収数は1,471件の回収数、82%の回収率だった。
・文化財への関心度を「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせて「関心がある傾向」とし、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせて「関心がない傾向」とし、「どちらともいえない」の3つに集約した。
・10代の回答は5名と極端に少ないため、中学生と20歳代以上を対象に分析した。
・所有者へは直接ヒアリングを本年の1～2月にかけて20件行った。
- 委員 豊川稲荷や財賀寺が市全体で身近な文化財と考えられているのは想定内だが、想定外の回答はあったか。
- 事務局 御油のマツ並木は比較的、市全体として多かった。
指定文化財ではないが、大和の大いちょうや佐奈川の桜並木も上位に来ている。
- 委員 小坂井中学校区にある伊奈城跡が他校区でもあがっている。砥鹿神社はどうか。
- 事務局 砥鹿神社も神社として全ての校区であがっている。
- 委員 地域内で集中的に票が集まるところと、広範囲から票が集まるところがあるということか。傾向が読み取れて面白い。
- 委員 回収率が約35%はあまり高くないと思う。他部署が実施した類似する無作為抽出のアンケートと比較してみたか。
- 事務局 都市計画マスタープランは割と高く、50%程度ある。芸術振興プログラムももう少し回答があったので、回収率は割と低めだと思う。
- 委員 アンケートの配布方法はネットか、ポスティングは行っていないか。
- 事務局 一般市民向けは郵送のみ。
- 委員 文化財のアンケートで35%程度は、妥当だと思う。都市計画のアンケートは、生活に密着しているのので、5割程度の回答があるのは当然だ。それよりも、中学生の82%の方がすごいと感じた。これはネットで行ったのか。

- 事務局 パソコン端末での実施をお願いした。ほとんどの学校は朝の会で一斉に行ったと聞いている。
- 委員 8割程度であれば、指示だけが先生からあったのではないかと。授業中に実施していれば9割超えると思う。
- 委員 事務局長 いずれにせよ、8割という割合は回答として非常に信頼度が高いと思う。厳しい意見もあり、中学生なりにしっかり考えて回答してもらえた。貴重な意見だと考えている。
- 委員 高校生になると受験勉強で忙しくなることが多いですが、特に歴史に興味がある子どもにとって中学生時代が一番自由に過ごせる時期だと思う。そのような世代の意見を聞くことは非常に大事なことだと思う。
- 委員 一般市民アンケートの回収数700件という数字は、信憑性のある数値と考えているか。
- 事務局 方向性としては参考になると考えている。
- 会長
事務局 議題2 文化財保存活用地域計画策定案について
- ・第1回に示した資料から章立てを検討し、重複した内容を整理した。
 - ・保存活用区域を追加した。現在計画が進んでいる『史跡三河国分寺跡・三河国分尼寺跡保存管理計画』、三河国府の国指定、市指定の船山古墳の整備工事を令和6年度に予定しているので、ここを重点地区として本計画に反映させたい。
 - ・文化財保存活用地域計画は、文化財保護法および愛知県文化財保護条例に基づき、上位計画である第6次豊川市総合計画、豊川市教育振興計画を基に、都市計画マスタープランや観光振興推進計画などの計画と関連付けて策定する。
 - ・将来像や、理念、目標などをそれぞれの計画に基づいて、本計画の方向性を考えていく必要がある。それに加えて、現状と現在想定される課題を9つ挙げている。①調査・把握に係る課題、②組織としての課題、③知ってもらうための課題、④伝えるための課題、⑤地域に関わる課題、⑥仕組みに関わる課題、⑦連携に係る課題、⑧観光に係る課題、⑨親しむ機会に係る課題
 - ・これらの課題を踏まえ、将来像を「歴史文化を継承し、輝くとよかわの未来を担う人づくり」として提案する。
 - ・方向性については、①調べて残す、②ともに伝える、③ともに守る、④ともに楽しむ の4つとした。
- 委員 課題の抽出は生涯学習課で行われたようだが、その内容をまず庁内全体で検討したのか。この計画は、都市計画や産業経済、防犯安全などが絶対に関係してくる。例えば赤坂の街並みやお寺への歩道や街並みを整備するとなると、都市計画は関係する。活用といっても何を着地点として話を進めているのかのかわかりにくい。庁内での協力体制も見えていない。
- 事務局 庁内内部会で今後検討を進め、他部署にも積極的に関わってもらえるよう呼びかける。
- 委員 「文化財保存活用地域計画」という計画名称だが、歴史文化と文化財は同義なのか。
- 事務局 市民がどう捉えられるかということは以前アンケートを取る際も迷った。

文化財保護法上の未指定も含め「文化財」と定義した。歴史文化とは文化財を取り巻く周辺環境なども含むつもりで表現しているが、まだ整理できていない部分がある。

委員

本協議会の役目は指定・未指定に関わらず文化財をどうしていくのかを考える場だと思う。例えば、登録有形文化財を全て対象とするのは難しいので、ある程度の基準を設けるなど範囲を絞るのか、あるいは、将来的に目指すのか、その方向性が見えない。

少なくとも庁内各部局の共通認識が大事になる。実際に文化財を学ぶだけでなく、空間的にも目に見える形で表現されて、観光に波及していくような素地を形成できれば良いと思う。そういう計画になるとよい。

事務局

建造物などを全て残すのは難しい。

委員

中学生アンケートの自由記述に「残したいのも分かるのですが残して何になるかも伝えないと、場所として邪魔なだけですよ。」とある。我々は何のために活用しようとしているのか。まちを活性化させる目的が儲かるためだけだとすると、やる気が削がれる。それなりに経済も回さないといけないが、そういったことのためにこの計画を実施するとなるとこの素朴な中学生の意見に答えられない。

文化財は一度無くすと元には戻らない。我々にはこの計画の中で文化財に対してはどうしたいかが見えない。

文化財の修理に立ち会った際、昔できたことなら今の最新技術をもってすれば簡単なことだと思っていたが、昔できたことが今できないというものがある。だからこそ残す必要があると言われた。こういうことを若い人たちに伝えてほしい。

委員

自由記述の「邪魔ですよ」というものはとても素直な意見だと思う。普通の人の発想だと思う。いらないと思う人も多くいる。

古いからといって全てのものを残すということではない。何を壊して何を残すかという理屈は必要で、「価値があるから残す」というだけでは通じない。「何になるのかも伝えないと」という、この中学生の言葉はしっかり受け止めるべきだ。

そもそも活用について言われるようになったのは、文化庁の方針によるところが大きいですが、これをチャンスと捉え、単に文化財を保存するだけでなく、活用を考えていくことが大事だ。

今、近くの市では城跡の文化財指定に向けて市民が主体となって盛り上がっている。雰囲気づくりがうまくできており、歴史クラブの高校生も関わっている。豊川市も同様の試みができると思う。

事務局

文化財の価値を伝えるようにする。

委員

観光協会では、マイストーリー豊川という体験プログラムの一つとして、財賀寺の敷地を使ったトレジャーハンティングを企画した。金属探知機でお宝を探し、お昼は境内で弁当を食べるといったもの。このような体験を通じて、文化財に触れるという企画だった。結果として雨で中止になってしまったが、予約は満席となっていた。

また、ロケ地の誘致といった活動もしている。

現在の大河ドラマ「どうする家康」が放送されていることを受け、家康ゆ

かりの地を紹介しているが、他の市町では文化財に詳しい人がガイドをしている。観光という視点でしか考えてこなかったため、今後は専門的な観点も含めた活動ができるとよいと思う。

先日、県内のお城へ視察に行った。城として十分すばらしかったが、天守にエレベーターを設置してほしいという声を現地で聞いた。そういう意見を全て取り入れると文化財の価値が損なわれてしまう。文化財の活用には、様々な専門的な意見を聞き、他の課と連携して進めてもらいたい。

委員

4月8日にオープンするイオンモールに、豊川市から援助を受けて運営する「豊穰屋」がある。その内装は松並木をイメージしている。豊川市の文化財のPRや豊川市産のものも販売していく。これからも新たな商品を開発しながら店舗運営ができるとよい。文化財との直接的な関連は薄いかもしれないが、活用の面から協力できればと思う。

ほかにも、旅行支援事業として旅行会社が豊川稲荷発の一日コースを企画したところ1日に200～300人の申し込みがあったと聞いている。民間の旅行会社が行う企画で市外から豊川市を巡る人たちもいるので、そういった形で文化財を知ってもらえるとよい。

委員

今まで文化財の保護を中心に考えてきたので、なかなか活用ということがイメージできない。利益を出すという話となるとなおさら難しい。

地域の祭りの道具や仏像の修理、遺跡の調査など何らかの保護活動をすれば一時的には関心を持って人が来る。しかし、関心を維持するのは難しい。行政の支援もその活動をしたことで終わってしまう。

ウォーキングマップを作っても無くなれば増刷はしないし、配布場所も作成した部署でしか行っていないなど、庁内でも部署が違えば、全く話を通じていないことが多い。連携というのは非常に難しいことだと思うが、文化財の保存活用のためには、連携をしていただかないと困ることになる。今後は連携を進めていただきたい。

事務局
委員

庁内部会を通じて、情報収集し、他部署とも連携した計画にする。

前提として、文化財をどのように捉えるかが重要と考える。先行して地域計画を作成している市では、計画の中で2,000件に及ぶ文化財の予備軍を拾い出しているが、これらをどうするのかという制度設計を示していないところもある。また、文化財の予備軍を顕彰する制度を作って、それらを活かせるようなことがなされている市もある。豊川市ではどうするのかまだ詰め切れていないと思われる。愛知県では、12月に県の登録制度を新設すると発表している。県の動きなどを踏まえ検討する必要がある。

事務局としては人づくりを全面に出しているが、ハード面との関連も検討してもらいたい。具体的には、措置に具体的なアクションプランをあげてもらいたい。今回の資料では整理しきれていないが、今後は文化財の分布状況を面的に把握し、それを基に地域ごとの施策を検討してほしい。

事務局
委員
事務局

今回は間に合わなかったが、措置の中ではそれらを考慮する。

計画期間が令和6年から15年となっているが、10年期間ということか。

おおむね10年程度を考えている。ただし、他の計画との関連など考慮し、見直しも検討している。

事務局

今年度の協議会は今回が最後となる。令和5年度は計3回、第1回は7月

頃の開催を予定している。その間に文化財保護審議会でも協議し、その内容も含めて次回の協議会を開催する。

以 上